

世界が進むチカラになる。



経済調査

グラフで見る関西経済 (2026年2月)

2026年2月13日

調査部 主任研究員

塚田裕昭

今月の景気判断～横ばい圏で推移している

【今月のポイント】

- 関西経済は、横ばい圏で推移している
- 11月の生産は3カ月ぶりに前月比マイナスとなり、均してみると弱含んでいる
- 12月の実質輸出は2カ月ぶりに前月比でマイナスとなった。均してみると横ばい圏で推移している
- 設備投資は、非製造業を中心に大幅な伸びが計画されている
- 小売販売額は名目ベースでの増加が続いているが、12月は前年比+0.1%と小幅にとどまった。実質ベースでは4カ月ぶりにマイナスとなった
- 11月の賃金(大阪)は、名目ではプラスが続いている。実質では4カ月連続でマイナスとなった

| 項目 | 現状 |
|------|---------------|
| 景気全般 | 横ばい圏で推移している |
| 生産 | 弱含んでいる |
| 輸出 | 横ばい圏で推移している |
| 設備投資 | 増加している |
| 雇用 | 持ち直しの動きがみられる |
| 賃金 | 持ち直している |
| 個人消費 | 持ち直しの動きがみられる |
| 住宅投資 | 横ばい圏で推移している |
| 公共投資 | 例年並みの水準となっている |

生産

11月の鉱工業生産(関西)は前月比-0.5%と3ヵ月ぶりにマイナスとなり、均してみると弱含んでいる。汎用・生産用・業務用機械、化学が増加したが、電子部品・デバイス、電気機械が減少した。先行きは、中国経済減速の影響もあって、弱含みが続くと見込まれる。

鉱工業生産指数



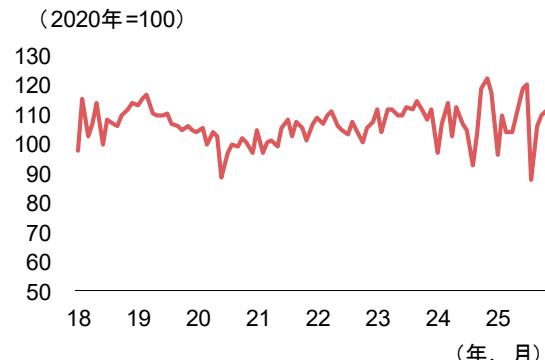
電子部品・デバイス



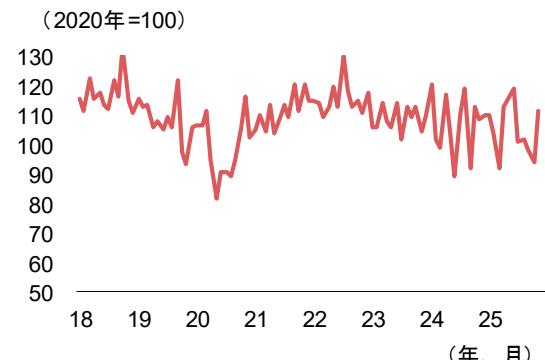
電気機械



化学



汎用・生産用・業務用機械

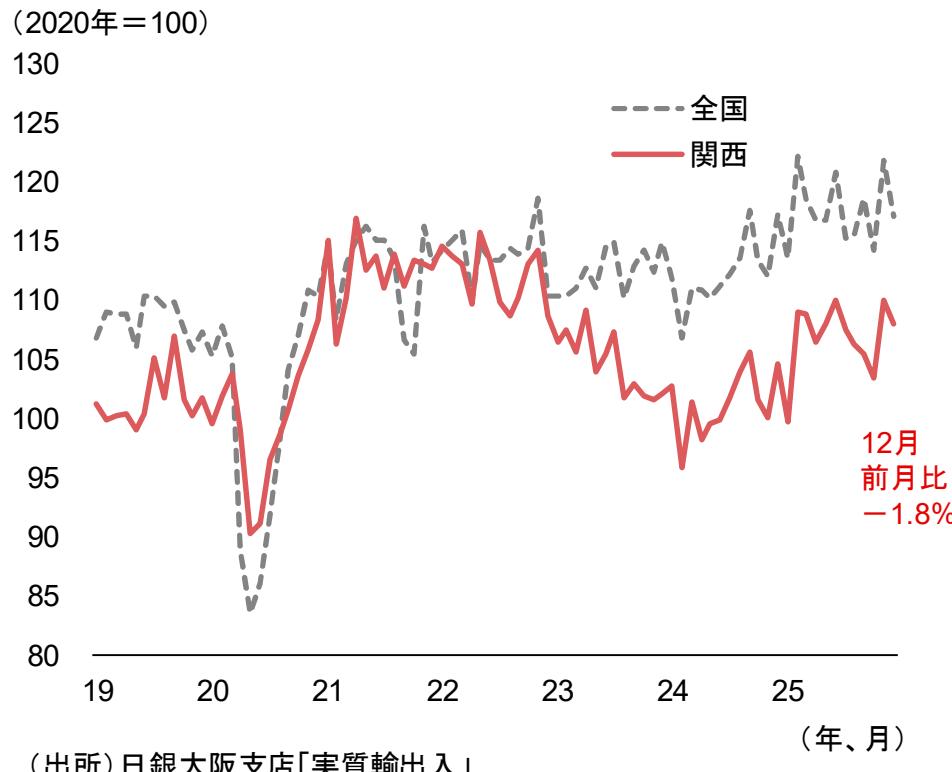


(出所) 経済産業省「鉱工業生産動向」

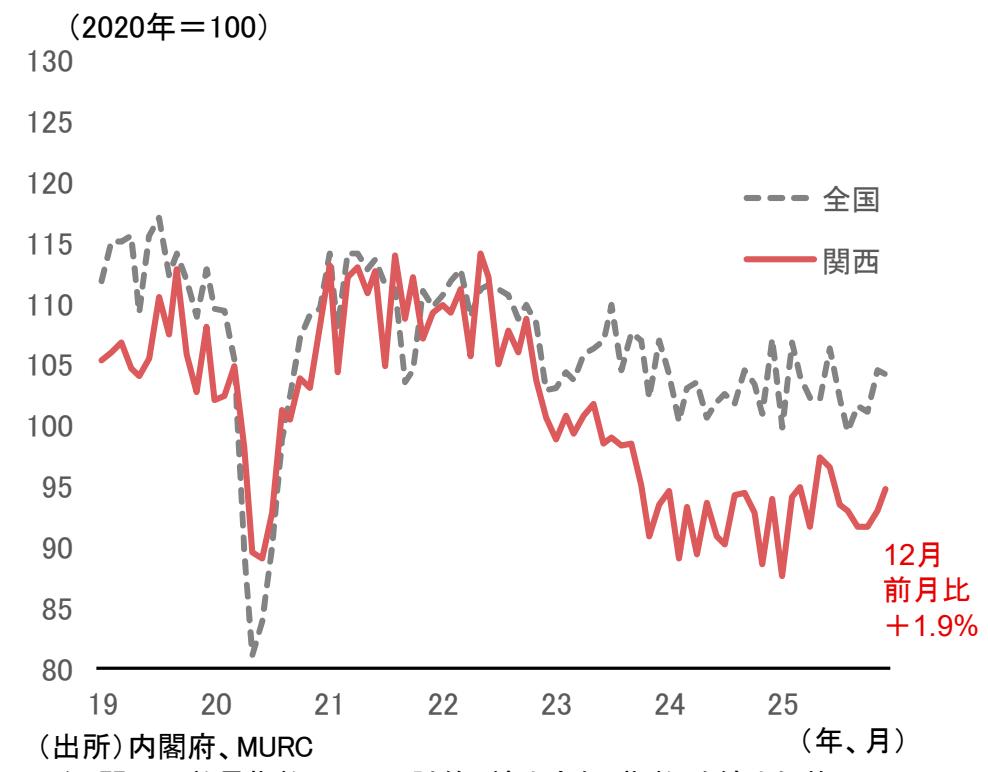
輸出

12月の実質輸出(季節調整値)は、前月比-1.8%の108.1と2カ月ぶりに減少した。均してみると横ばい圏で推移している。当社試算による12月の輸出数量(季節調整値)は3カ月連続で増加した。先行きについても横ばい圏での推移を見込むが、中国経済の減速から下振れるリスクもある。

実質輸出指数(季節調整値)



輸出数量指数(季節調整値)

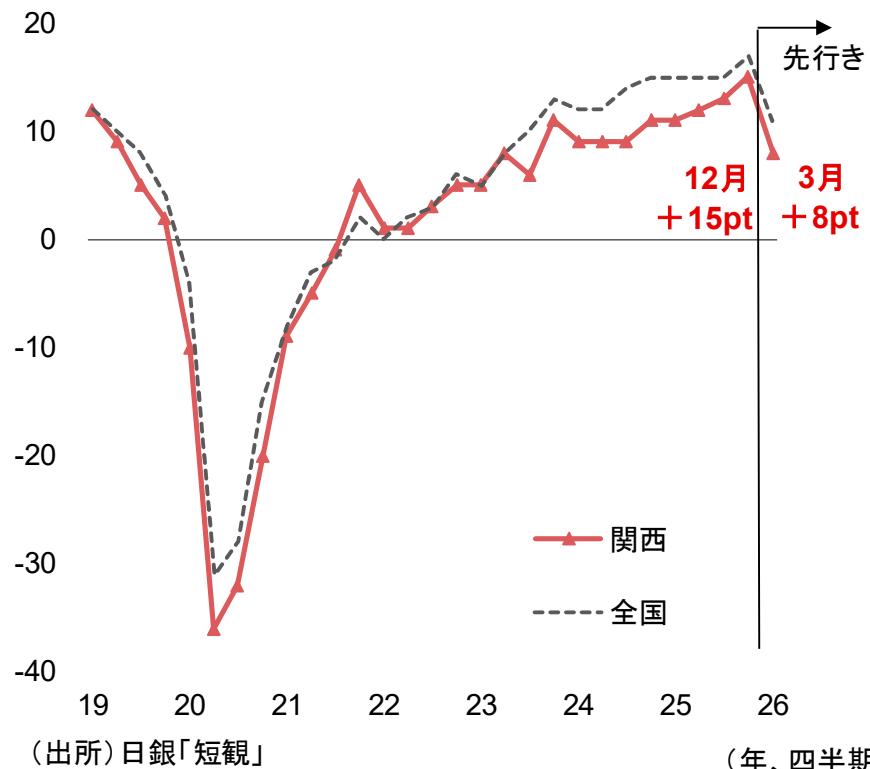


企業景況感(日銀短観)

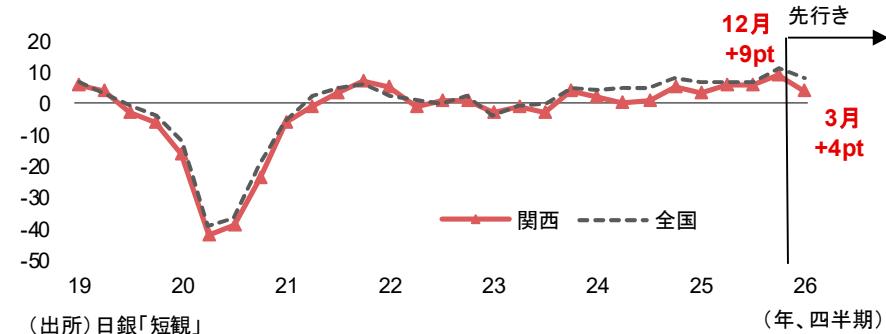
※以下は12/15公表の12月調査。3月調査は4/1公表予定。

日銀短観12月調査の業況判断DI(「良い」—「悪い」)は、全産業で+15ptと9月調査から改善。製造業は+9pt、非製造業は+21ptといずれも改善した。業種別に見ると、製造業では化学、非鉄金属、はん用・生産用・業務用機械などが上昇。非製造業は不動産、物品賃貸、宿泊・飲食サービスなどが上昇した。先行き(3月)については、製造業、非製造業ともに低下が見込まれている。

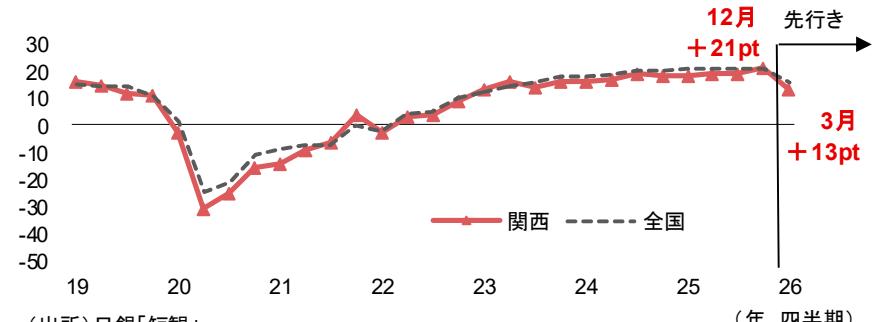
短観 業況判断DI「全産業」



同 製造業

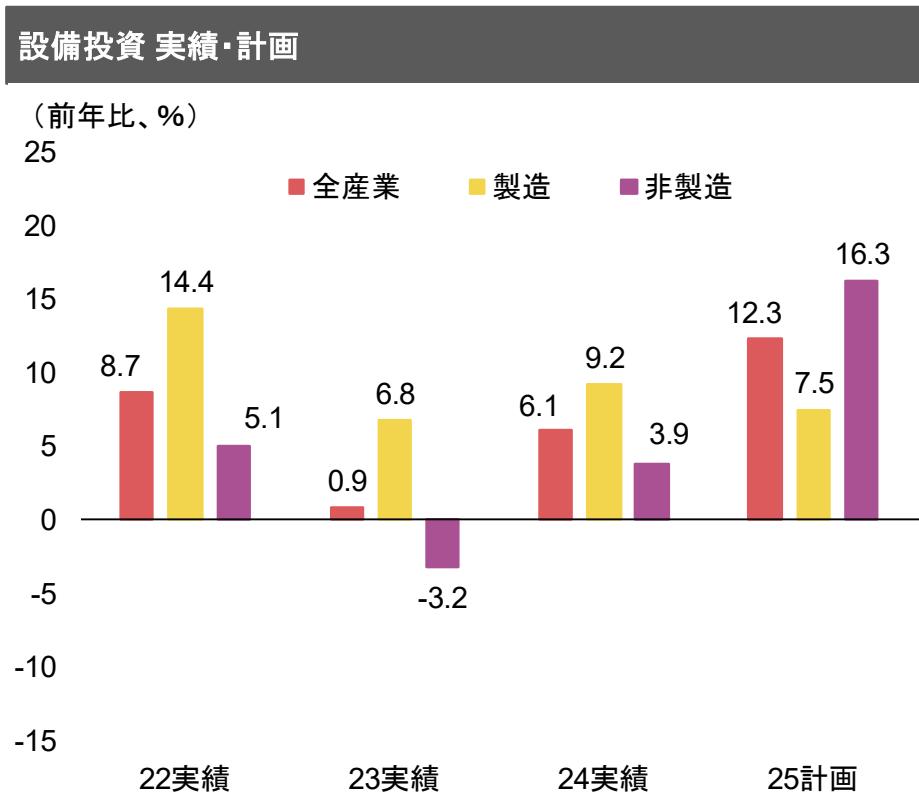


同 非製造業



設備投資(日銀短観) ※以下は12/15公表の12月調査。3月調査は4/1公表予定。

日銀短観12月調査によると、25年度の設備投資は全産業で+12.3%の計画となっており、企業の設備投資意欲は引き続き強い。業種別では、食料品、電気機械、輸送用機械、建設、対事業所サービス、宿泊・飲食サービスなどが前年比大幅増の計画となっている。



設備投資額(前年比%)

| | 24年度 実績 | 25年度計画 | | |
|-------------|------------|--------|------------------|------|
| | | 今回調査 | (前回調査と の差異) | 前回調査 |
| 全産業 | 6.1 | 12.3 | (-0.5) | 12.8 |
| 製造業 | 9.2 | 7.5 | (-1.3) | 8.8 |
| 非製造業 | 3.9 | 16.3 | (0.3) | 16.0 |

(出所)日銀大阪支店「短觀」

(注)設備投資は、含む土地投資額

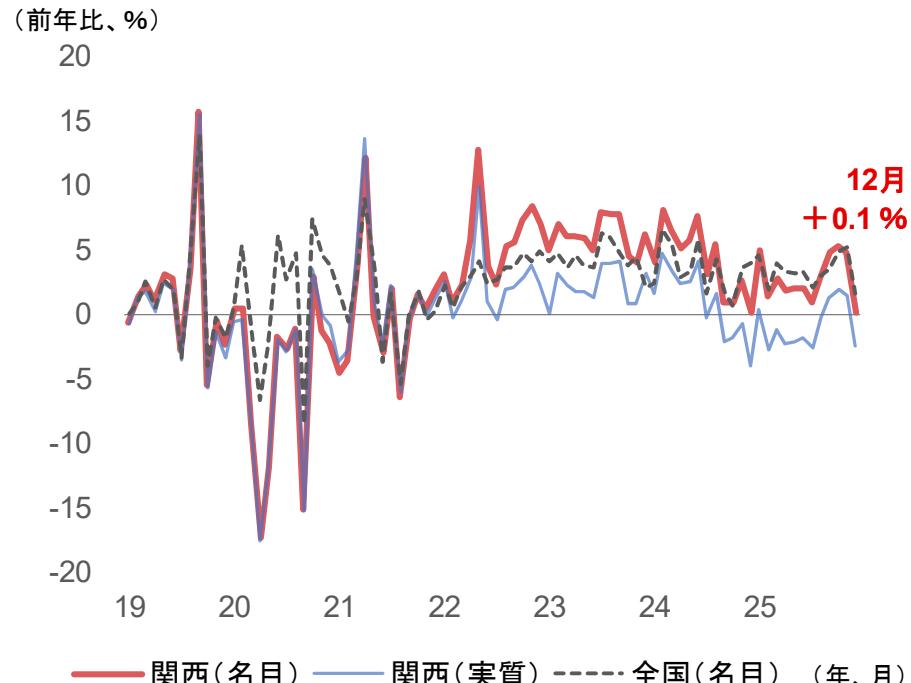
(年度)

個人消費(小売売上、自動車販売)

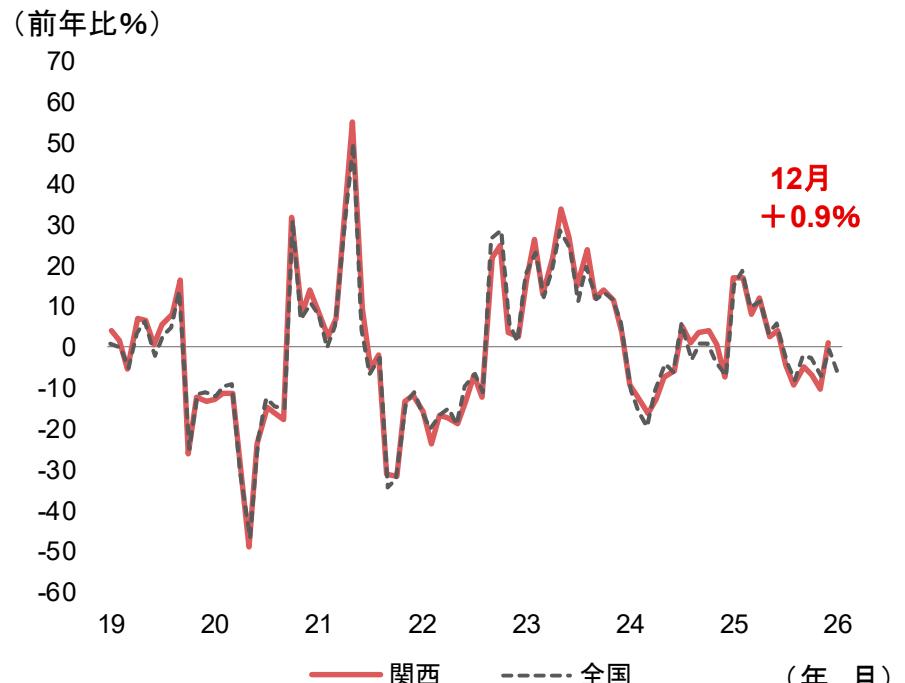
12月の小売販売額(名目)は、前年比+0.1%の小幅増となった。実質値は前年比-2.4%と4ヶ月ぶりにマイナスとなった。

12月の新車販売は、前年比+0.9%と6ヶ月ぶりに増加。普通車が減少したが、小型車、軽自動車が増加した。

小売販売額(6業態計)



新車販売台数(含む軽)



(出所) 経済産業省「商業動態統計」からMURC試算

(注) 百貨店、スーパー、コンビニ、ドラッグストア、家電量販店、ホームセンターの合計
「持家の帰属家賃を除く総合(関西)」で実質化

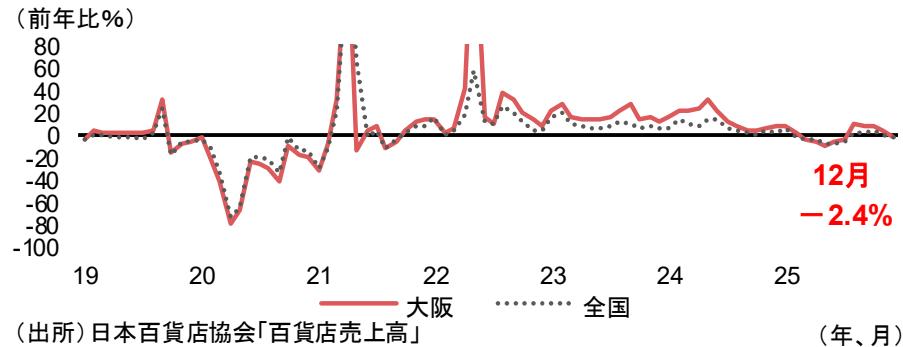
(出所) 日本自動車販売協会連合会「新車販売台数状況」

全国軽自動車協会連合会「軽四輪車新車販売」

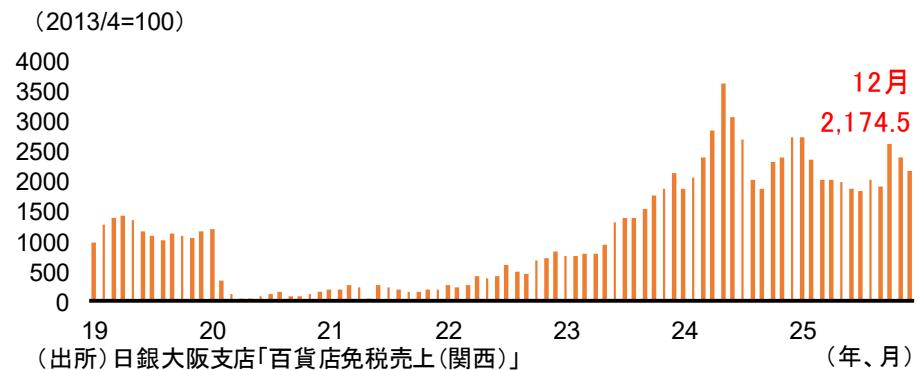
個人消費(業態別)

12月の百貨店売上(大阪)は、中国人客数減少の影響で前年比-2.4%と5ヶ月ぶりにマイナスとなった。京阪神百貨店免税売上指数は前年比-20.2%の2,174.5と2ヶ月連続でマイナスとなり、減少幅も拡大した。

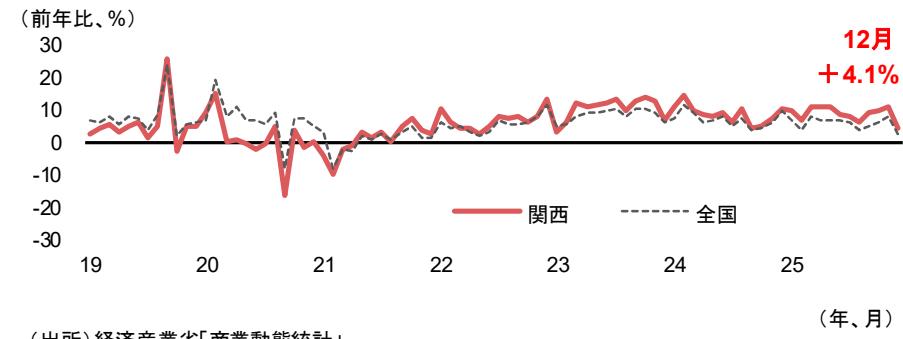
百貨店売上高



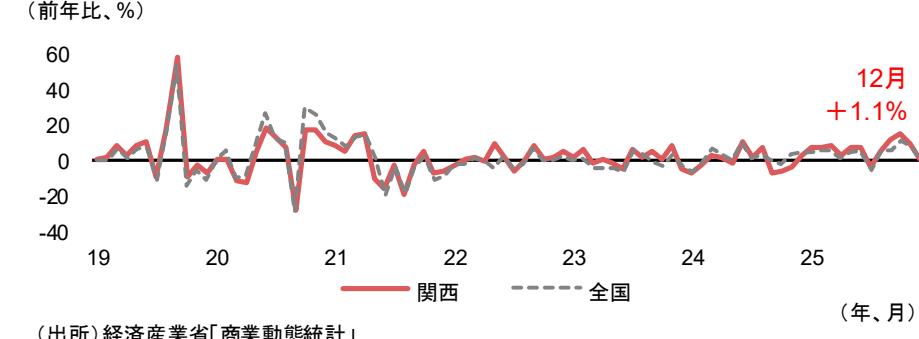
京阪神百貨店免税売上高



ドラッグストア販売額



家電大型販売店販売額

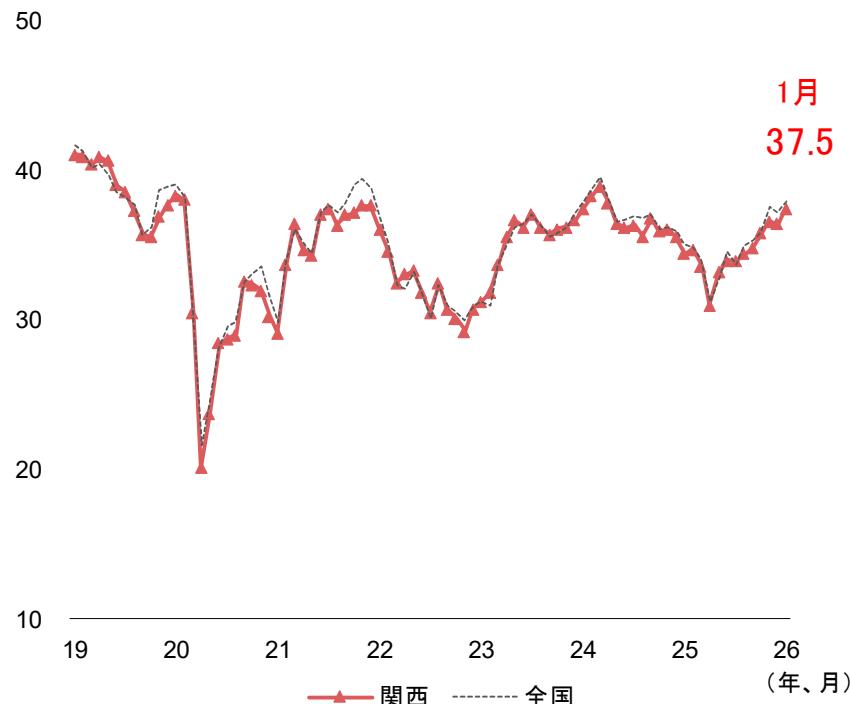


マインド・景況感

1月の消費者態度指数(季節調整値)は37.5と2ヵ月ぶりに上昇した。

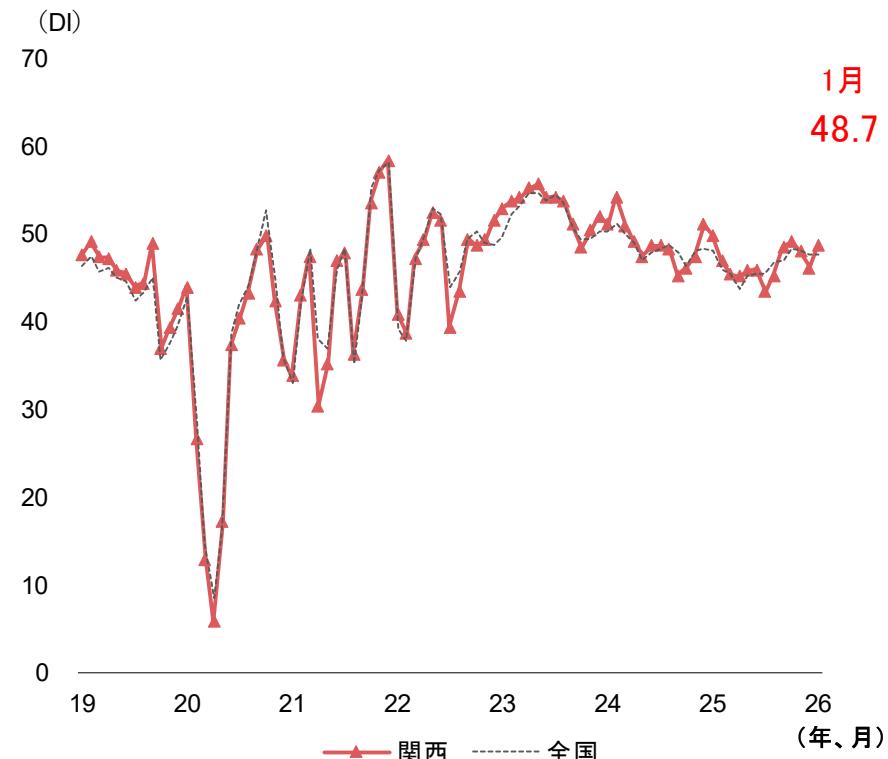
1月の景気ウォッチャー調査(現状判断DI、季節調整値)は前月差2.6pt上昇の48.7となったが、横ばいを示す50を13ヵ月連続で下回った。中国の渡航自粛によるインバウンド減がある一方で、国内富裕層の高額品消費の伸びなどがプラスに寄与した。

消費者態度指数



(注)関西の季節調整値はMURC試算
(出所)内閣府「消費動向調査」

景気ウォッチャー調査(現状判断)



(出所)内閣府「景気ウォッチャー調査」

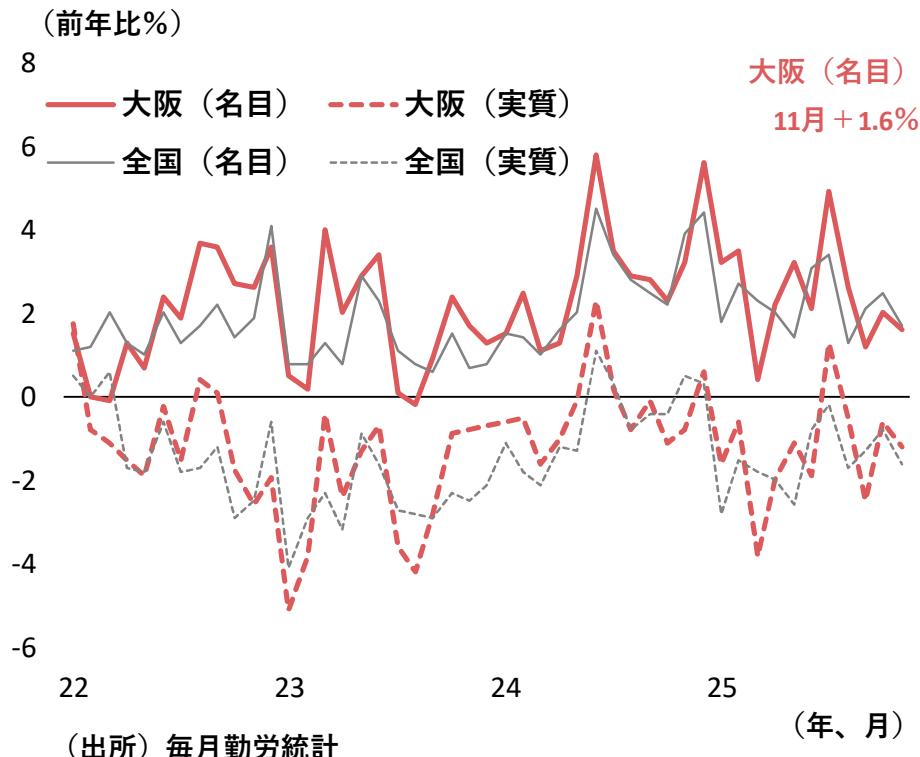
賃金・雇用

11月の大坂の賃金指数は、名目で前年比+1.6%と前年比プラスが続いている。実質では同一-1.2%と4ヶ月連続でマイナスとなった。

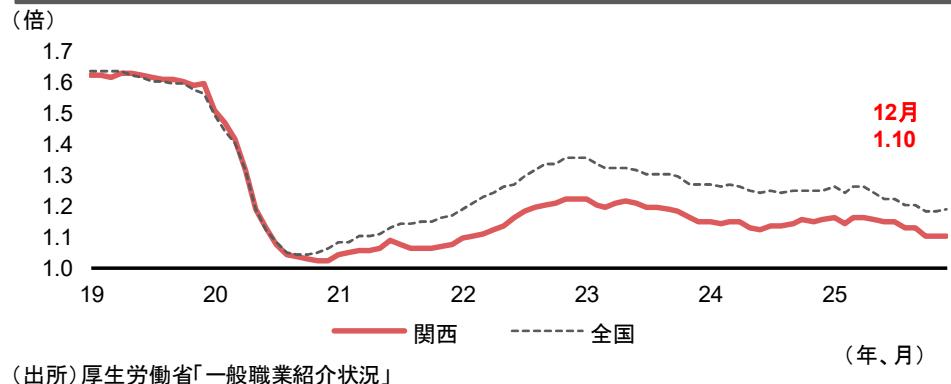
12月の関西の有効求人倍率は1.10倍と前月と同水準。求人倍率は全国と比べ低めで推移している。

25年10-12月期の失業率は3.0%と前期から0.3%pt上昇、就業者数は小幅増加した。

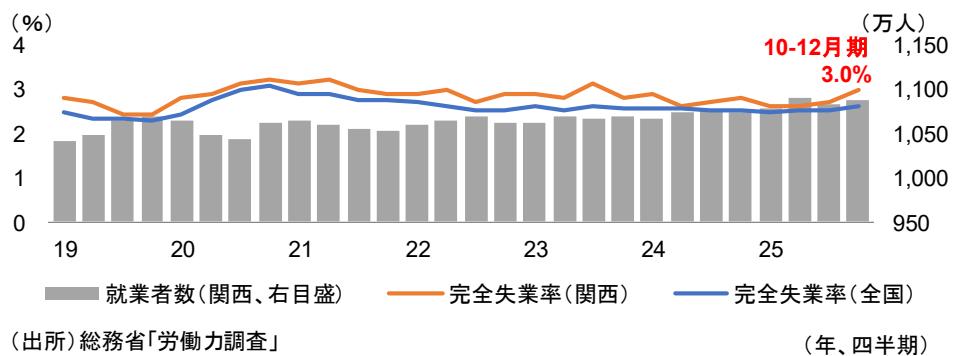
名目賃金指数



有効求人倍率(季節調整値)

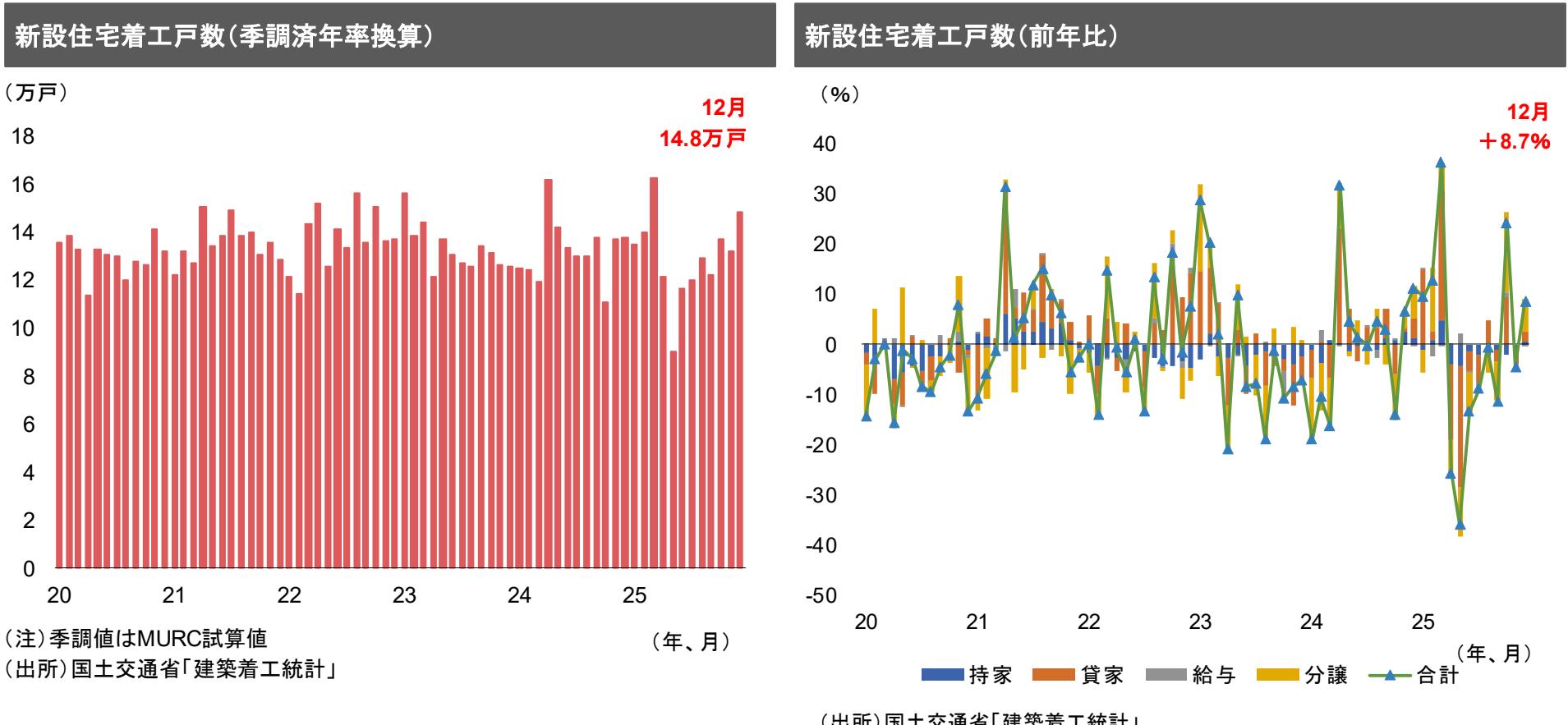


失業率と就業者数(季節調整値)



住宅投資

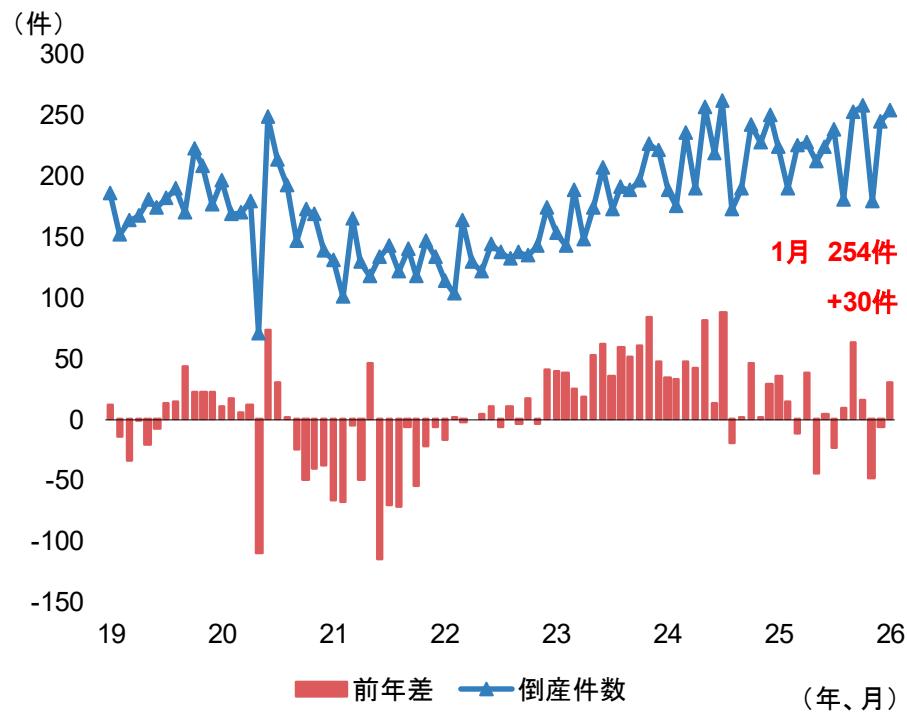
12月の住宅着工は、季調・年率14.8万戸と2ヶ月ぶりに増加した。昨年3月に省エネ基準への適合義務化等を前に全国で駆け込みが生じたことの反動減はおおむね解消し、持ち直しの動きがみられる。前年比では+8.7%と増加。先行きは、季調・年率で横ばい圏での推移を見込む。



倒産

1月の倒産件数は254件と前年から30件増加。均してみると、おおむね横ばい圏で推移している。

倒産件数

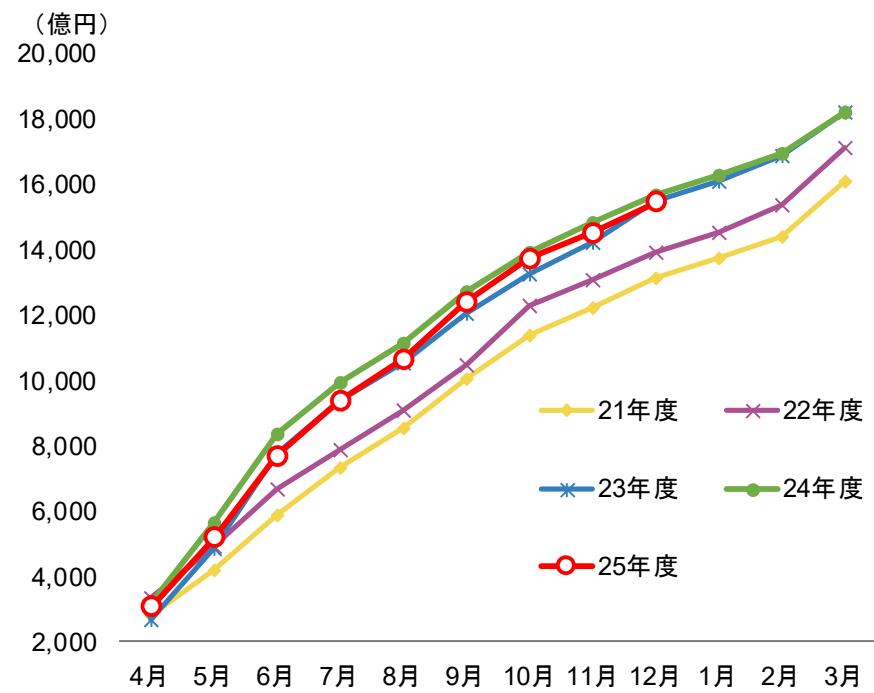


(出所)東京商エリサーチ「全国企業倒産状況」

公共投資

12月の公共工事請負金額(年度累計)は、前年比-1.5%の1兆5,423億円。おおむね例年並みの水準となっている。

公共工事請負金額(年度累計)



(出所)東日本建設業保証「公共工事前払金保証統計」

ご利用に際して

- 本資料は、執筆時点で信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、およびその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず、出所：三菱UFJリサーチ＆コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください。

(お問い合わせ)

調査・開発本部 調査部 塚田

TEL:03-6733-1626 E-mail:chosa-report@murc.jp

〒105-8501

東京都港区虎ノ門5-11-2 オランダヒルズ森タワー